

第四回館山市議定会定例会會議錄（第四号）

一、 昭和五十六年十二月十九日（土曜日）午前十時
二、 館山市役所議場

出席議員 二十四名

- | | |
|------------|------------|
| 一番 神田 守隆 | 二番 石井 謀 |
| 四番 横溝 功 | 五番 福原 勤 |
| 八番 石井 昌治 | 九番 松下 正己 |
| 一番 林 豊 | 一二番 栗原 一雄 |
| 一三番 近藤 好雄 | 一四番 渡辺 昭夫 |
| 一五番 伊藤 幸太郎 | 一七番 黒川 平治 |
| 一八番 流山 源次郎 | 一九番 石井 輝久 |
| 二〇番 石井 武敏 | 二一番 吉田 勇治郎 |
| 二二番 藤田 益治 | 二四番 和田 一郎 |
| 二五番 五十嵐 昇 | 二六番 伊賀 多朗 |
| 二七番 石井 正 | 二八番 安澤 徳順 |
| 二九番 安西 益男 | 三〇番 山口 康 |
| 欠席議員 二名 | 二三番 菊井 敏博 |
| 七番 古賀 礼四郎 | |

出席説明員

第一号に同じ

出席事務局職員

第一号に同じ

議事日程（第四号）

昭和五十六年十二月十九日午前十時開議

議案第五十五号

千葉県市町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の制定に關

日程第一

議案第五十六号
館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十七号
工事請負契約の締結について

議案第五十八号
字の区域及び名称の変更について

議案第六十一号
昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第六号）

日程第二

議案第五十九号
館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十号
館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三

議案第六十二号
昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第四

請願第三号
農地固定資産税に関する請願書
臨調答申に反対する意見書の提出をもとめる請願書

日程第五

請願第五号
西岬地区学校統合反対の請願書
西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書

日程第六

議案第六十三号
財産の取得について

日程第七

議案第六十四号
財産の取得について

日程第八

議案第六十五号
館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十六号

昭和五十六年度館山市一般会計補正

予算（第七号）

議案第六十七号

昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

日程第九 議案第六十八号

昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第一号）

議案第六十九号

昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算（第三号）

議案第七十号

昭和五十六年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算（第一号）

日程第十 発議案第六号

国民健康保険給付費の都道府県一部負担導入反対に関する意見書について

日程第十一 発議案第七号

農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦について

日程第十二 三芳水道企業団議会議員補欠選挙

開 議 午前十時一分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長（林 豊君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第五十五号乃至議案第五十八号及び議案第六十一号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る十二月十五日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る十二月十五日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第五十五号乃至五十八号及び議案第六十一号につきまして、十二月十七日総務委員会を開会し、慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第五十七号工事請負契約の締結についてであります。

先の本会議の説明では公民館北条分館の説明がなかったが、これはどうなっているのかと質問したところ、防衛庁補助金の関係で北条地区学習等供用施設ということになった。実質としては北条地区学習等供用施設と北条分館の共用という形で考えている。名称については設置条例の際明らかにしたいとの答弁がありました。

た。

次に、埋め立ての際の周辺環境対策をどのように考えているかと説明を求めましたところ、排水については施設ができた場合境川に流れることになるので、施設建設にあたって境川の底うちを考えている。交通の渋滞対策としては、造成業者と話し合い、朝夕の混雑時は避けるようにしていきたい。境川の流れをよくするために蛭子神社のところに橋を大きな橋にかけかえるとともに、のみぐちを広げ、両方向からの流れをよくするための導流堤を設置するとの説明がありました。

次に、従前田であったところを埋め立てることに伴い、雨水等の処理は完全に行きかた質問したところ、その点について設計業者も十分計算しており、底うちをすれば百ミリ程度の雨に対してもだいじょうぶということになっているとの答弁がありました。

次いで、蛭子橋の下流に対する対応をどういうふうに考えているか質問したところ、十一月二日の大雨のとき現地に行き見てきたが、蛭子橋のところまでは護岸の上のほうまで水がきていたが、神社から先の護岸についてはまだ一メートル程度の余裕があり、下流についてはだいじょうぶと考えている。しかし設計業者と協議した結果、先のほうまで底うちをしなければならぬような場合があれば、県のほうに要望してやっていただくようにしたいとの答弁がありました。

次に、相当広い土地の造成であり、冬季の北西の風が吹くと砂等が飛ばすところがあると思うがどうか、また苦情が出た場合の対応策について質問したところ、業者とよく話し合いをし、風のあるときには水をまく等砂が飛ばないよう善処する。また埋め立て

をする場合に、業者と市で周辺住民の了解を取りに行くとの答弁がありました。

次に、昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第六号についてまずリージョンプラザ構想についての考え方を正しましたところ、リージョンプラザというのは略称で正式に広域広場というふうに言っている、地方の時代がさげばれているとき自治省が打ち出したもので、広域市町村圏を中心として地方の時代を建設しようという考えのもとに、広域市町村圏の中核都市に広域圏全体で利用する文化施設、体育的な広場、公園、こういうものをつくらうというところで五十五年度から実施していく計画であった、昨年の十月ごろから財政状況の変化の中で計画が縮小されてきた事態に伴い、防衛庁の補助を得たほうが有利であるということから現在の計画に変更した。なお、自治省が考えた形というのは広域圏の範囲というふうに考えているとの答弁がありました。

次に、建設後の運営について、老人センター、市民センターのように運営を民間団体に任ずることがあるかと質問したところ、公民館については公民館の事務職員が入る、保健センターは保健婦等が入る、勤労青少年ホームについては公民館の職員が兼ねることになる。最終的な決定はできていないが、今後内部で調整を図っていききたいとの答弁がありました。

次に、今後の運営については、市の職員を派遣するより、人材があれば職員以外から採用したらどうかと質問したところ、効率的、合理的に施設を運用しなければならぬと考えている。四施設全体の館長を置くとか市職員以外で職員を委嘱できないか等、研究機関をつくり検討していきたいとの答弁がありました。

次に、コミュニティセンター平面図等の資料の提出を求め、構造、各階の面積、各施設の面積等についての説明がありました。

次に、文化会館の構想についての説明を求めたところ、文化会館を建設したいという考えをもっているが、その規模等については具体的な案はできていない。将来の財政事情等を見きわめながら進めていきたいとの説明がありました。

次に、コミュニティセンターの中に婦人会館を入れてほしいという要望があったかとの質問に対し、婦人団体から事務所を置いてもらいたいということと結婚式場として使える場所というよりな要望は出ていたとの答弁がありました。

関連して、博物館本館の今後の建設の見通しについて説明を求めたところ、本館と分館は一体化ということで進めている。本館については設計段階にきており、来年度から建設の予算をお願いしたい。広さは千六百七十平米、約五百坪、建築費は三億六千万程度と試算しているとの説明がありました。

次いで、勤労青少年ホームの軽運動場施設とは何かと説明を求めたところ、勤労青少年ホームをつくる場合の必置施設で軽い運動、たとえば卓球程度の施設を考えているとの説明がありました。次に、センター内に剣道、柔道のできる施設をつくったかどうかと質問したところ、市民センター、二中の体育館、一中の武道館、これらを総合的に有効に利用する方向で考えていきたいとの答弁がありました。

保健センターはどのような運営をしていくのかと質問したところ、保健婦の働く場所であり、住民をよんでの指導や予防接種の実施、母親学級等の実施など住民にとって大変便利な施設と考え

ているとの答弁がありました。

次いで、設計ができた時点で議会に協議を願う考えがあるかについてただしたところ、設計ができ上がると、この建設について五十七年度の予算で提案し、御審議をいただくことになるが、予算審議が始まる前に設計図を提示し、御相談申し上げたいとの答弁がありました。

次に、雨水等の排水の問題は解決できるかとただしたところ、用地造成にあたり設計者と十分な連絡を取り、境川及び南町排水路へ流れる全範囲にわたり排水量の計算を行った。その結果、現在の排水路で一部手直しをすれば十分対処できるとの結論を得ており心配はないと確信している。これにかかる予算については来年度予算でお願いするとの答弁がありました。

次に、予備保育母設置費補助金百四万五千円の増額の内容と延長保育運営費補助金が九十二万円減額されているが、共稼ぎ家庭の現状からみて保育時間の延長は必要なことではないかとただしたところ、予備保育母設置費補助金については、定員が六十名以上の私立保育園において、保育を定数を超えて設置した場合に補助金を交付するもので、該当はユニスコ保育園で一名設置しているとの答弁がありました。また長時間保育については、保育園は八時半から四時までということであるが、延長して八時から五時程度まで行っている。新年度からは夕方現在より三十分程度延長していきたいと考えているとの答弁がありました。

次に、水産振興費中、未利用資源開発促進事業補助金、沿岸小型漁船操業安全対策事業補助金、小型漁船遠距離漁場集団操業促進事業補助金が計上されているが、これは本年度だけの補助金で

なく来年度も継続されるかとただしたところ、組合の要望に基づき引き続き実施するとの答弁がありました。

次に、花摘み園管理人夫賃金が減額補正されているが、花摘み園の状況について説明を求めたところ、ことしの春は鳥久跡地において一月開園ということで実施したが、非常に花が少なくという結果に終わった。五十七年春には植物園を主体として行うとともに管理運営も従前の方式をかえていく計画で、花摘み園の拡大ということを考えているとの説明がありました。

次に、道路維持補修工事材料について、この材料は農道整備にも使えるか、またグレーダーの使用申請は市役所に来なくても電話でできないかと質問したところ、今回お願いしたものはほ場整備区域内で市道であったものが閉鎖されて、今回幹線道路としてで上がったが、未舗装のために住民から碎石等の要望がきていたものに充てる考えであり、一般農道に使用する原材料ではない。またグレーダーの使用の関係については、口頭による申し込み等臨機応変にできるよう検討し、その方向で努力するとの答弁がありました。

次に、館山運動公園整備事業負担金の減額補正が計上されているが、事業の進捗状況と今後の見通しについて質問したところ、本事業は五十三年から五十九年にわたる事業であり、事業総体で二十七億円の事業予定である。今年度終了時点で十億六千六百万円を予定していたが八億一千万の事業が完成することになる。五十六年度までの事業予定に対し実施率は七六％である、今後の見通しとしては五十七年度に幹線園路の仮舗装を完了し、園内の給排水施設、電気配線、入口広場が施工され、テニスコート、パレ

ーコートについても駐車場とともに五十七年度末には一部が使用できる。総体的に見て実施率が低く、二年ないし三年程度予定より延びるかもしれないとの答弁がありました。

次に、運動公園と城山公園を結ぶ道路をつくる考えはないかとただしたところ、まず城山公園と運動公園の実現を一義的に考え、それを結ぶということは今後検討してみたいとの答弁がありました。

次に、船形小学校校舎防音改築工事請負費の減額の理由についてただしたところ、第一期分についてはくい打ちに変更があり、二百十九万七千三百五十五円の減と二十七万七千九百六十五円の入札の残が出た、第二期分については防衛庁と相談の上、当初予算において平米単価を八万三千円と見込んだが、実際の実施単価は六万八千円ということになったことによるとの答弁がありました。

関連して、夜間の学校の警備はどのように行っているか説明を求めたところ、警備会社に委託している。警備のための機械が据えてあるところは職員室等四、五カ所で、ほかの部分については巡回による警備を行っている。船形小学校の場合は新しい校舎を建設中なので、全般的に巡回をお願いしている。毎日、日誌をつけて報告がきているとの答弁がありました。

次に、館山音楽鑑賞協会補助金の内容について質問したところ、従来オーケストラを呼んでの演奏会は予算の関係でできなかったが、今回特別演奏会ということで計画したので追加補助したい、鑑賞協会会員は登録されている者は八百名ぐらいいるが、確実な会員数としては三百六十名程度と思われるとの答弁がありました。

次に、西岬地区の通学用道路に関する予算が計上されているが

三月三十一日までに工事は完了できるか、また通学バスを運行するにあたり国鉄から要望が出ていると思うが、これに対する処置についてただしたところ、通学道路新設工事については本議会で議決をいただければ本年中に入札を済ませ新年早々工事に取りかかる、工期を三月末日として完了させる。また、国鉄バスのほりと一緒に現地を見ている、国鉄バスからの要望に対し現地でいろいろ検討し、一応協議は整っている、それに基づいて予算を要求したいとの答弁がありました。

以上、総務委員会に付託されました議案につきまして、本委員会の審査の概要を申し上げました。満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で委員長報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第五十七号工事請負契約の締結について及び議案第六十一号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第六号にそれぞれ反対の討論をいたします。

議案第五十七号工事請負契約の締結についてであります、コ

ミュニティ施設用地の造成にかかる工事請負契約の承認の議案でございますが、反対の理由は、第一に談合の疑いがあったとはつきり確認できないからであります。むしろ状況は、この契約会社鹿島建設の副社長前田氏が業界で自主調整という名で事実上の談合行為を認めているとおりであります。事実、私自身も入札以前から落札業者名をうわさとして聞いていましたし、当局の説明では肝心のところはお答えできないということで、釈然としないところであります。なお、積算書の提出を求める旨の答弁があり、さらに今後入札のあり方を抜本的に見直すとの答弁がありました、この点について遅きに失したとは言え、その姿勢は評価するものであり期待するものであります。

第二に、ここ一、二年の工事発注は大手建設業者の比率が高くなり、市の工事発注から地元業者が締め出される傾向を示しています。たとえば、五十二年から五十三年に議会の議決に付した工事発注は八件ありましたが、すべて地元業者が落札をしています。五十四年度は七件中三件は市外の手業者であり、五十五年から五十六年度では八件中四件が市外の手業者であります。ここにはやむを得ないことがありますが、地元経済の育成の観点からも積極的に地元発注を考えるべきであります。

以上、指摘いたしました、議案第五十七号の反対討論といたします。

議案第六十一号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第六号についてであります、臨時職員にも金額は少ないとは言え、ボーンパス支給に道を開くなど評価すべき点もございますが、住民の意向を無視した学校統合に関する予算措置として西岬地区通学用道

路の用地買収及び工事請負費が計上されるなど、住民の意向を十分に尊重する姿勢がないと考えます。

したがって、この予算について了解できず、学校統合についてはもとに戻すべきことを主張し、この議案に反対いたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第五十五号及び議案第五十六号について採決いたします。

議案第五十五号及び議案第五十六号についての委員長報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第五十五号及び議案第五十六号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第五十七号工事請負契約の締結について起立により採決いたします。

議案第五十七号についての委員長報告は原案可決であります。

議案第五十七号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君

の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第五十七号工事請負契約の締結については原案のとおり可決されました。

次いで、議案第五十八号字の区域及び名称の変更についてを採決いたします。

議案第五十八号についての委員長報告は原案可決であります。議案第五十八号を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第五十八号字の区域及び名称の変更については原案どおり可決されました。

次いで、議案第六十一号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算について起立により採決いたします。

議案第六十一号についての委員長報告は原案可決であります。議案第六十一号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第六十一号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第五十九号及び議案第六十号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案はともに去る十二月十五日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会副委員長松下正己君。御登壇願います。

（文教民生委員会副委員長松下正己君登壇）

○文教民生委員会副委員長（松下正己君） 去る十二月十五日開会の本会議におきまして本文教民生委員会に付託されました一般議案二件につき、翌十六日委員会を招集し、各案件につき慎重なる審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、審査の結果について、議案第五十九号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第六十号館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定についてを一括して慎重なる審査を行いましたところ、賛成多数であり、それぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について申し上げます。

市当局としては二十四学級までが適正規模であるとの説明だが認められない、統合については地域住民との定着した論議の中から出たものではないとの反対意見があり、また統合は教育上の公平性の立場から必要であるとの賛成意見がなされ、さらに賛成でない方たちとの十分な話し合いをもって実現するより前向きの取

り組みが必要であると強く要望いたしました。

以上、文教民生委員会に付託されました議案についての審査の概要を御報告申し上げ、何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で委員会の報告を終わります。

ただいまの委員会報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第五十九号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第六十号館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたします。

市当局は、西岬住民に十分に説明し、その理解を得てからこの問題の解決をなせぬろうとしないのでしょうか。市長は多少の反対があってもやむを得ないと答えていましたが、反対は決して一人や二人という少数でないことは、わずか一日で四部落だけで六百四十一名もの反対署名が集まったことから明らかであります。この署名者数は四部落の有権者数に対して実に八〇％にもなるものでございます。多少の反対云々をというのなら、むしろ統合促進

の請願はたった一人、池田公憲氏一人のみです。西岬地区コミュニティ代表の肩書きがついているとは言え、氏自身が選出区の集会で統合問題をめぐりこれまで区に対し多大の貢献をしてきたにもかかわらず住民の理解を得られず辞意を表明せざるを得ないなど、統合促進はとうてい西岬住民多数の総意とは言い難いものであることが明らかであります。冷静に西岬住民の意がどこにあるかをみれば、こうしたことは容易に理解できるところであります。市当局がこれまでとってきた住民の意向が反対ならば無理に統合はしないとのこれまでの方針にも反するものと言わざるを得ません。統合反対は適正規模による教育効果の向上をわきまえぬ議論との批難の声を聞くこともございますが、はたしてどの程度が適正規模と考えられるか、それ自身大変に議論のあるところでございます。文部省の発行した統合の手引きによれば、中学校の適正規模を十二学級ないし十八学級としています。大き過ぎる学校は、たとえば生徒同士、生徒と教職員とがそれぞれ顔も知らないということになり、校長先生はとも自分の学校の子供の顔さえ覚えられないということになりかねません。心のつながりは薄れ、学校は子供たちにとって心のよりどころではなくなってしまう。大規模校は非行発生率が高いといわれるゆえんであります。

統合により第二中学校は二十学級となり、文部省の統合の手引に示された基準を超えることとなります。これは適正規模への統合ではなく大規模校への統合であります。二十四学級まで適正規模だとの市当局の発想は全く論外であり、教育上の問題を理解しない、財政優先、官吏優先の発想といわなければなりません。

西岬中学は、百五十名余の生徒でありますから小規模校ではあ

りますが、統合前の神余中や豊房中などとは基本的に違います。現に、いまでも学力の面、スポーツの面など立派な実績を上げています。

さらに、他学区の子供たちも希望により西岬中に通えるなど、通学区の運用について工夫をすれば、統合によらずとも西岬中学を充実させることができます。特に、統合により通学の負担が過大になることを考えれば、こうした措置のほうが現実性があり、問題点が少ないと考えます。

これまでの統合は市街地の学校に農村部の学校を統合するといふ形であり、その結果、農村部の子供たちが市街地の学校に通うということになってきました。その結果、農村部は学校を失い、文化面でも市街地中心となっていく、子供たちは地場産業である農業に若いうちから見切りをつけることになってきました。こうして農村部の過疎化はさらに拍車がかけてきたのであります。これまで市街地の子供が農村部の学校に通うということがなぜ考えられてこなかったのでしょうか。学校統合は財政上の効率性だけで考えるべきではありません。教育そのものを考えるべきであります。農村部には教育上欠くことのできない豊かな自然と風土があります。それは市街地の学校では得難いものであると思います。農村部の学校の廃校ではなく充実をこそ考えるべきであります。

以上の立場から、この議案第五十九号及び議案第六十号の学校統合の議案に反対をいたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

次、一二番栗原一雄君。御登壇願います。

(一二番議員栗原一雄君登壇)

○一二番(栗原一雄君) 議案第五十九号及び第六十号について、文教民生委員会の審査報告について賛成の討論を行います。

現在、館山市立西岬小中学校の学区内においては、過疎化に伴う小中学校児童数の減少の傾向は大きな社会問題であろうと存じます。現在、西岬中学校は、特殊学級一を含め六学級で生徒数百五十七名の小規模校では大きな教育効果を望むことは大変困難であろうと存じます。教育とは人格の完成を目指すものでございます。したがって市立第二中学校に統合することによって、学区内の学齢児童生徒の教育的效果を期待できる重要な措置として認め以上の理由によりまして賛成をいたします。

○議長(林 豊君) 以上で一二番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長(林 豊君) これより採決いたします。

採決は起立により一括して行います。

議案第五十九号及び議案第六十号について委員会の報告は原案可決であります。各議案を委員会の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よって議案第五十九号及び議案第六十号の議案はいずれも原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長(林 豊君) 日程第三、議案第六十二号昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長(林 豊君) ただいま議題となりました議案第六十二号は去る十二月十五日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより本案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謙君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長石井 謙君登壇)

○建設経済委員会委員長(石井 謙君) 去る十二月十五日開会の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました議案第六十二号昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算第二号につきまして、十二月十六日建設経済委員会を招集し議案の審査を行いました。

その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきまして全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

水道事業費用の中で、受託工事費三百二十五万一千円の減額についてどこの場合か説明を求めたところ、出野尾及び西長田地区であるとの答弁がありました。

次いで、薬品購入費五十二万円が減額されているが、薬品の購入先について尋ねたところ、薬品の一番大きなものは消毒に使う塩素であるが、市内で取り扱っている業者がないので市外の二社から年間単価契約を結び購入している。また次亜塩素酸ソーダについて一部扱い場合があるが、これは市内の業者から購入している旨の答弁がありました。

次に、高井地区については、農業の基盤整備の影響で地下水面が下がってしまったことにより水道布設の要望が出ているが、市ではこれについてどう検討していくか説明を求めたところ、高井地区については三芳水道の区域が主であるが、館山高校東側の道路約五百メートルの西側が市の水道区域になっており、この場所は県道富津館山線の改良計画があり、それを待って布設をしたいと考えているが、この改良計画について土木事務所の確認を得、その結論によって対処していきたい旨の説明がありました。

これに対し、土木事務所と折衝するにあたり、実施可能か不可能かをはっきりさせて、早急に市としての結論を出すよう要望いたしました。

次に、浄水場環境整備委託料の減額内容について尋ねたところ、浄水場からダムの河川の環境整備について地元へ委託している。その中で寄附をいただいた桜の木の手入れについて出役者が予想以上に少なくて済んだため減額となった旨の答弁がありました。

続いて、特定化学物質取扱作業場所環境測定委託料の減額内容について尋ねたところ、塩素を使う関係で環境測定を義務づけられており五十六年度から実施している。当初千葉県予防衛生協会の見積もりで積算したが、その後上総環境センターが設立され、

その見積書の提出を求めたところ格安であったため予算残を生じた旨の説明がありました。

次に、動力費の追加の理由について尋ねたところ、今年度は昨年度に比し雨量が少なく、作名ダムの貯水量が減少したことにより、河川からのくみ上げを約三カ月余り行ったため、電動動力費に不足を生じた旨の答弁がありました。

続いて、路面復旧費の内容について説明を求めたところ、現在まで実施した配水管の関係で仮復旧で終わっているところが真倉に二カ所あり、これを本復旧するためとの説明がありました。

次に、現在のダムの貯水量について尋ねましたところ、四十五万トンである旨の答弁がありました。

続いて、河川からダムへくみ上げる水量と使用量の関係について説明を求めましたところ、くみ上げ量は平均して一日四千トン、使用量は三千五百トンから三千八百トンの間であるとの説明がありました。

次に、西岬地区においていままでは夏になると断水が多かったが、来年の夏の見通しについて尋ねたところ、西岬地区の特に高台の地区がいままでは水の出が悪かったが、現在見物浄水場に加圧施設を設置しており三月に完成の見込みである。これにより改善されると考えている。また、旧なだぎり水道は昭和三十八年につくられたもので目標年次を過ぎており、また当時と比べて家屋もふえている。第一次拡張事業により作名浄水場から波左間まで配水管を一本持つていった既設の管につないで給水しており大きな支障はないと考えるが、波左間については本管自体が細い関係もあり一時的に使うと今の口径では足りないことも考えられるので、こ

れについては順次改良していく以外にないと考えている答弁がありました。

次に、資本的収入及び支出一目改良工事費について現在の時点で執行率はどのくらいになっているか説明を求めたところ、工事請負費として二億四千四百七十万円予算化しており、そのうち執行しているものは約半分である旨の答弁がありました。

続いて工事請負の執行にあたり最低制限価格を設けたか尋ねたところ、五百万円を超えるものについては最低制限価格を設けることができるので七五〇から九五〇の範囲内でこれを設けて執行している旨の答弁がありました。

次に、工事入札にあたって一件ごとに最低価格を定めていくという執行の仕方であるかどうかたまたところ、そのとおりである旨の答弁がありました。

続いて、五百万以下のものについては制限価格を設けないという理由について尋ねたところ、財務規則により執行している。これは水道だけでなく市の執行する入札の工事はすべて五百万円を超えるものについてのみ最低制限価格を設けている旨の答弁がありました。

次に、設計金額よりかなり低い額で落札した事実があると聞くがどうか尋ねたところ、水道の関係では出野尾、西長田地区の給水装置工事の三工区のうち一工区で設計金額のおおむね半分というところで落札した事実がある旨の答弁がありました。

続いて、将来の問題として五百万円以下のものについても最低制限価格を設ける考えはないか尋ねたところ、請負工事については厳重に監督をし、業者を指導しているところであるが、五百万

円以下の最低制限価格についてもいろいろな法を引き合わせて慎重に検討していきたい旨の答弁がありました。

なお、最低制限価格の設定とともに検査制度の強化についても考慮されたい旨要望いたしました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について本委員会の審査の概要を御報告申し上げます。何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告による討論はありませんでした。

討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

議案第六十二号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第六十二号を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第六十二号昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算は原案どおり

可決されました。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、請願第三号農地固定資産税に関する請願書及び請願第四号臨調答申に反対する意見書の提出をもとめる請願書を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各請願書は、去る九月開会の第三回市議会定例会において総務委員会に閉会中の継続審査に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 請願書の審査結果について御報告申し上げます。

閉会中の継続審査として本委員会に付託されておりました請願第三号及び請願第四号につきまして十二月十七日の委員会において審査を行いましたところ、請願第三号農地固定資産税に関する請願については採択、請願第四号臨調答申に反対する意見書の提出をもとめる請願書については不採択とすべきものと決定いたしました。

なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、総務委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長の報告について御質疑はありませんか。――御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 請願第四号臨調答申に反対する意見書の提出をもとめる請願書につき委員会の審査結果に反対し、私はこの請願を採択すべきであるという点で討論を申し上げます。

臨調答申が実施されると、単純に計算されるものだけでも館山市民の負担増は五億円以上、一世帯当たり三万円を超えると試算されます。社会保険料の値上げ、老人医療費の有料化、市町村には補助金のカットや財政負担の肩がわり等々であります。増税なしと言ってありますが、実際は物価高にに応じて当然行われる所得税減税がないために、来年は実質増税三兆円と見込まれています。昭和五十二年に四大家族で二百五十万円のサラリーマンは五十七年度では税金が五倍にもなると試算されます。

こんな国民の負担増とはうらはらに、防衛費は破格の扱いであります。新年度の概算要求で、ゼロシーリングの声の中で予算規模は七・五%増、発注ベースで見ますとなんと今年度比べて新年度は二・七倍増という信じられない数字となっています。また米軍のために一基五億円をかけて核攻撃に耐えられるシェルター

なども予算化しようとしています。

さらに、三兆円を超える大企業の優遇税制に抜本的にメスを入れることについては触れられません。

臨調答申は国民の負担増で大企業優遇、軍備拡張の政治を進めようとするものであります。私は、軍事費を削り、福祉、教育の充実をと主張し、当市議会においてもこの際関係省庁にこうした趣旨に沿い働きかけるべきであると考えます。こうした点を主張し、この請願に賛成するものであります。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第三号について採決いたします。

請願第三号についての委員長の報告は採決であります。請願第三号を委員長の報告どおり採決と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって請願第三号は採決すべきものと決しました。

次いで、請願第四号について起立により採決いたします。請願第四号についての委員長の報告は不採決であります。請願

第四号を委員長の報告どおり不採決と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって請願第四号は不採決と決しました。

日 程 の 追 加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま採決と決定されました請願第三号に付帯して発議案第五号農地固定資産税に関する意見書案が提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 発議案第五号農地固定資産税に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 発議案第五号農地固定資産税に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案は、先ほど採択されました請願書の趣旨を体しまして提出いたしましたものであります。

すでに、皆さま方御承知のとおり、来年度は固定資産価格の評価替えを行う基準年度でありまして、国におきましては全般的な税制改正を検討する中で、農地固定資産税に対する評価の見直しとともに、特に市街化区域内農地にかかわる宅地なみ課税について減額措置の廃止、課税適用範囲の拡大を意図しております。本市は、宅地なみ課税につきましてはその適用区域とはなっておりませんが、このような農地課税の強化は農家経済を大きく圧迫するものと考えます。

そこで、この際、本市議会といたしましても、全国的な運動に呼応し、国に対しまして農地固定資産税の課税にあたっては、格別なる配慮を要望いたしたく、お手もとに配付のとおり七名の賛成者を得まして、本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。
御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認

めます。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） 本案については委員会の付託並びに討論省略直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

請 願 書 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第五、請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書及び請願第六号西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各請願書は、去る十二月十五日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する文教民生委員会における審査

の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会副委員長松下正己君。御登壇願います。

(文教民生委員会副委員長松下正己君登壇)

○文教民生委員会副委員長(松下正己君) 去る十二月十五日開会の本会議におきまして本文教民生委員会に付託されました請願二件につき、翌十六日委員会を招集し、慎重なる審査を行いました。その経過並びに結果についてを御報告申し上げます。

まず、審査の結果について、請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書については賛成少数であり不採択と決しました。請願第六号西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書については賛成多数であり採択すべきものと決しました。

次に、慎重なる審査の経過について詳細にわたり申し上げます。まず、小規模であるがために教育上現実の問題があるのか、また学力の面で劣っているのかとただしましたところ、小規模校では人数が少ないので固定し、学習意欲が減退するので正しい意味での競争心が出てこない。消極的傾向となり創造性、実践力が薄くなり、学習集団が少ないので学習成立が困難になる。学力については公表をすべきものでないとの答弁がなされました。

続いて、統合によるプラス面は多いといわれているが、三中統合の経験を生かし、今回の統合にあたって改善すべき点はあるのかと尋ねましたところ、今回の統合は三中とは異なり同一統合ではない。西岬地区だけ統合するので精神的な面の安定を第一に指導したい。その上で学力、体力、クラブを育てていきたい旨の答弁がありました。

次に、学校規模の適正化について、西岬中は現在六学級である

ので教育の本務である子供の個々の能力を引き出すことはむずかしいと思うが、その点についてどのように理解をしておるかを聞きましたところ、そのとおりであり、ゆえに統合は必要であると説明がありました。

さらに、適正規模については中学校の場合十二学級から十八学級である、二中は二十学級ということで文部省基準を超えているか、ある意味では過大規模と思うが、その点について説明を求めましたところ、適正規模は十八学級八百人、その上限が二十四学級千人、下限が十二学級というのが通例の考え方で、義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令における適正な学校規模の条件となっているとの説明がありました。

次に、統合にあたり学校の位置に配慮すべきと思うが、現在の二中の位置についてはどう考えるか、なお今後校地の位置について検討の課題となるのではないかとただしましたところ、位置についてはいろいろ真剣に調査した結果、最適ではないかもしれないが現在の位置に決定した。なお今後人口動態によっては変更ということもあり得るが、通学距離については他の面より充実させていきたいと思っている旨の答弁がありました。

統合について、話し合いの経過をみると、コミニティ委員会と学校統合専門委員会と十分に話し合ってきているようだが、これらの方たちを代表とみなしてやってきたところに問題はなかったのか、また現時点でも代表とみておるかとお聞きしたところ、代表と考えており、地区を代表した意見がこれら代表の人たちによって反映されておると思うので問題はないと答弁がありました。そこで、話し合いの経過の中で、直接住民との話し合いがない

ように思われるが、今後要望があれば十分に話し合う機会を持つべきと思うが、その点についてはどのような姿勢をもって対処していくかを聞きましたところ、従来からも住民との対話をしなかったことはないと思うが、要望があれば今後進んで話し合いに応じていくようにする。また十分な機会をつくるように努力したいと前向きな答弁がなされました。

そこで、要望事項についての見解、姿勢をたえました。

まず、通学費については、五年間国の補助があるが、五年を経た時点でその後も全額市で賄っていく考えがあるか、また父母負担について軽減の措置を考慮しているかをたえましたところ、試算の段階ではあるが百五十八人で総額千六百四十五万円の交通費を要する、五年後については地方交付税の算定基礎になる、具体的には一カ月定期で香六千八百四十円、浜田七千五百六十円、見物八千円、波左間以遠九千三百六十円であり、その半額補助四千六百八十円ということではこれまで考えてきたが、割引率を前向きで考える中で、父兄負担の最高限度を決めることで全的に検討していきたいと市長より建設的な意見がなされました。

そこで、実際の通学時間を考えるとき、クラブ活動等に支障はないか説明を求めましたところ、朝は伊戸発七時一分、西岬着七時十三分、館山着七時三十五分で二中の始業時間八時に十分間に合ひ、現在も西岬中の生徒はこのバスを利用しており、帰りのバスについては館山駅発十七時四十分、西岬着十八時二分、伊戸着十八時十四分ということで、またこれに遅れた場合でも館山駅発十八時があり、クラブ活動の最終時間は冬は五時に押さえているので支障はないと思う、現在の運行回数でも全員乗りきれるが、

国鉄としても増発を考えておるということで心配はないと確信しているとの答弁があり、この時間を考慮しながら今後非行化防止を踏まえて努力すると答弁がなされました。

次に、自転車通学に対する補助についてと自転車専用道路をつくる考えはないかを聞きましたところ、自転車通学について一年間一万円で三年間にわたり補助するので三万円であり、自転車の専用道路は考えていないとの説明がなされました。

また、一世帯で二人通学しておる場合、特別な対応を考えておるかを聞きましたところ、いままでは考えておらなかったが、今後検討していくと答弁がありました。そこで、十分なる検討を加えるよう要望いたしました。

学童の安全を考える中で、待合所等の混雑に対する対策について十分なる検討をしておるかどうかを尋ねましたところ、現在いろいろと検討はしておるが、安全の重要性を真剣に考える中で前向きな対処をしていくよう努力するとの答弁がありました。

次に、非行防止また学童の安全性を願う中で、家庭への電話連絡は重要なことであると思うが、実行することができぬかを問いましたところ、必ず責任をもってやるように指導すると前向きな答弁がなされました。

また、西岬中職員の二中転用についてはどうかと説明を求めましたところ、協議はするが転用は県の権限である、しかし統合人事は地域の要望に対する意味で最優先であると説明がありました。そこで、統合についてそれぞれ意見が出されました。

反対の意見としては、今後研究すべき問題が多く蓄積されており、住民の理解を十分に得た上で進めるべきであり、市当局のこ

の問題についての対応には承認できない。

また、賛成の意見としては、複雑多様化する社会に対応できる人づくりは個々の能力を最大限に引き出す環境づくりであり、西岬地区は教育の機会均等、教育の平等性を欠いており、教育効果の上からも統合することが最適と思うが、反対の方もあるということ、十分考慮した上で、今後よりよい二中ができることを期待する中で、各種要望事項に対し市当局の積極的な姿勢を示していただき、館山市教育史上を飾る統合であったと称賛を受けるより期待するとの意見がありました。

最後に、統合の利点は説明の中で多く考えられるが、いままで統合した結果について説明を求めましたところ、豊房、神余を二中に統合したが、最近とみに学童たちに意欲が出てきた、現在の生徒会長も豊房の生徒になっており、テスト結果は固定化から成績が上回ってきており、クラブ活動などにおいても同様なことがいえる。また三中の場合は、北条と四中の統合をしたが、最初二カ月ぐらいは父兄、生徒ともにとまどいがあったが、一学期終了時点一切なくなり、現在では非常にまとまると説明がありました。

以上で文教民生委員会に付託されました請願それぞれについての概要を御報告申し上げ、何とぞ満場の皆さま方の御賛同を賜われますようお願いいたしますして、文教民生委員会副委員長の報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員会の報告を終わります。

ただいまの委員会報告について御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書に賛成の立場から、そしてまた請願第六号西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書に反対の立場からそれぞれ討論いたします。学校設置条例の改正に関する討論の中で述べたように、この学校統合は、第一に、西岬住民の意向を事実上無視している点、第二に、いわゆる適正規模を超えた統合であるということ、第三に西岬地区住民に経済的にも文化的にも犠牲を強いるものであること、第四に、何よりも成長期にある子供たちに遠距離通学の負担を強いるものであることなどを指摘し、この統合に反対する住民の意向を表明した統合反対の請願に賛成し、また統合促進の請願に反対いたします。

以上、討論を終わります。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

次、一二番議員栗原一雄君。御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書に反対、西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書に賛成の立場から討論を行います。

学校統合について昭和四十一年二月十一日館山市学校統合問題

審議委員会の答申があつて以来、今日まで延び延びになっている課題でございます。

教育の基本法は、憲法の精神にのつた機会均等を宣言しており、教育行政のあり方を明示したものでございます。

したがつて市内の教育学齡児の教育的受益は極めてアンバランスで、均等に行うには統合の促進による解決策でその不公平性を是正し、教育効率を増進することによって生徒個々の能力を最大限に引き出し開発できる環境づくりこそ真の教育であらうと信じます。したがつて、西岬学区の統合の遅れは教育行政の怠慢であると強く指摘をいたしたいと存じます。

もちろん、統合を行おうとする西岬地区は、過疎化に伴う生徒の減少でなおさら統合の必要性を痛感するところでございますが、統合によって歴史と伝統を誇る学校が廃校されることは地区民にとってはまことに残念至極であり忍びないことと存じます。

しかしながら、複雑多様化する現代社会における教育は、子供の将来の幸せを願うことが真の教育で、教育の目的とは、人格の完成をめざし、社会の形成者として真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじて自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期することを目的としており、中学校の教育は小学校の基礎的教育の上に心身の発達、成長に応じた教育を段階的に引き上げて生徒の主体性を培う教育施設として義務教育終了後において社会の形成者としての必要な資質と社会人としての必要な職業について基礎的知識と技能、勤労を重んずる態度、さらには個性に応じた将来の進路を選択する能力と学校内外においても社会的活動を促進し、その感情さらには公正な判断力

を養うための学習は専門教科として職員が配置しており、したがつておのずと小、中学校の違いがあるかと存じます。

したがいまして、統合による西岬学区の生徒に与える教育的な受益は、一つには、専門教師による充実した教科の学習が受けられる、二つ目といたしましては、個々の生徒の適性に応じた運動さらには各文化クラブ活動が自由に選択でき、楽しく能力を伸ばすことができる、三つ目として、生徒会の活動を通して社会性を培うことは生涯教育に役立つものである、四つ目といたしましては、漁業、農業、商業地域の生活環境の違う新しい出会いによって生徒の交流が行われ、人間形成に必要なコミュニケーション等の社会的活動を大きく促進するものであり、時代に適応できる人間性豊かな教育環境を与えることこそ真の教育行政であらうと信じます。以上の理由により、請願第五号に反対、請願第六号に賛成をいたします。

○議長（林 豊君） 以上で一二番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第五号について起立により採決いたします。

請願第五号についての委員会報告は不採択であります。請願第五号を委員会報告のとおり不採択と決しますことに賛成の諸君の

起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よって請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書は不採択と決しました。

次いで、請願第六号について起立により採決いたします。

請願第六号についての委員会報告は採択であります。請願第六号を委員会の報告どおり採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よって請願第六号西岬地区学校統合早期実現に関する請願書は採択と決しました。

議案の上程

○議長(林 豊君) 日程第六、議案第六十三号財産の取得についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

議案の内容説明

○議長(林 豊君) 議案の説明を求めます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 議案第六十三号財産の取得について提案理由の説明を申し上げます。

これは西岬地区通学用道路新設事業にかかる道路用地を取得し、ようとするもので、関係地主の了解を得られましたので、館山市

見物四三六番ほか二十九筆、面積五千四百二十三・六八平方メートルの土地について、予定価額五千二百六十七万八千二百五十円をもって鈴木明房氏ほか三十一名から買収しようとするものであります。

なお、土地取得後におきましては、直ちに延長四百九十七メートル、幅員八メートルの道路を新設する予定でありますので、よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長(林 豊君) 説明は終わりました。

質疑応答

○議長(林 豊君) 御質疑を願います。

○一番(神田守隆君) 議案の第六十三号についてであります。

すでに、補正予算の審議の中で質問もしたところでございますので、端的に御質問申し上げて御回答を得たいと思います。

通学道路の建設は、本来学校環境整備の一環として当然やらなければならぬことだと考えるわけですが、それが今回のこの議案については、学校統合にひっかけて、その条件として出てきているわけでございます。これは統合の条件であり、これと切り離して考えることはしない、こういうお立場なのかどうか。統合の是非にかかわりなく実施すべきであるというふうに思っています。その考えはないのかどうか。この点について補正予算の審議でも論議されたわけですが、この議案の提出にあたり改めて御確認いただきたいと思っております。

○教育長(安田豊作君) 御質問のとおりで、統合の条件として、統合がなければつくりたくない、そういうことでございます。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

○一番（神田守隆君） いま御回答いただきましたわけでありすが、議案の第六十三号であります、西岬地区通学用道路の用地取得でありますが、統合の条件としての考え方しかないということでありますので、私としてはこの議案に対しては賛成いたしかねますので反対いたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終わります。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第七、議案第六十四号財産の取得についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十四号財産の取得について提案理由の説明を申し上げます。

これは館山市立館山幼稚園園舎の改築を昭和五十八年度に予定しておりますが、現在の園地は狭く、拡張もほとんど不可能のため、新たに園地を取得しようとするもので、このほど関係地主の了解も得られましたので、館山市沼二九番ほか十四筆、面積五千三百四十三平方メートルの土地について、予定価額八千九十万二千円をもって切石義雄氏ほか十五名から買収しようとするものであります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案につきましては委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（林 豊君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第八、議案第六十五号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 以上で朗読を終わります。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十五号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について提案理由の説明を申し上げます。

これは、去る八月七日付の人事院の勧告に基づきまして、国家公務員の給与改正法案が十二月通常国会に提出される予定と聞いており、また県職員については去る十月十九日付の県人事委員会の勧告に基づきまして給料表の全等級にわたる改正、その他諸手当につきましても国に準じた改正が十二月十八日の定例県議会において可決されましたので、本市におきましても他との権衡を図るため、一般職員の給与を改正しようとするものであります。

改正の主なものとしては、一般職員に適用する給料表、その他扶養手当、住居手当、通勤手当及び宿日直手当で、実質五・〇三%の改定となっております。

なお、期末、勤勉手当の昭和五十六年度分支給につきましては、特例措置として、改正前の給料を基礎として支給しようとするものであります。

施行期日につきましては、国及び県の動向を見きわめた上で、規則で定めようとするものであります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○一番（神田守隆君） 少々質問したいと思うんですけれども、い

わゆるボーナスといわゆる期末手当、あるいは勤勉手当、これが今回の場合には前年度の給与ベース——改正された給与ベースで実施されずに旧の給与ベースで実施される、事実上のカットということになるかと思うんですが、この措置は総額で幾らになるのか。それは、職員の平均としては幾らのカットになるのか。まずお聞かせを願いたいと思うわけであります。

次に、県の人事委員会の勧告を完全実施するということが、職員組合等との間で大変強く叫ばれているかと思いますが、こうした人事委員会の勧告の完全実施を見合わせるということについては、どうしてそういうふうにお考えなのか。これまで県の人事委員会の勧告に基づいて職員の給与の改善を図ってきたというのがこれまでの経過ではなからうかと思うわけで、それでは職員の労働諸条件の問題については今後大変大きな危惧を抱かせる問題であらうかと思えます。そうした点からなぜ今回こうした措置をとったのかお聞かせ願いたいと思うわけであります。

さらに、現在、県内でこの職員の給与の問題で県の人事委員会の勧告を完全実施をしている、またそうした約束をしているというようなことを承っている市が十七市あると聞いております。こうした事実について市当局は御存じであるか。そうして、そういうもののとの均衡についてはどのようにお考えであるのかお聞かせを願いたいと思います。

さらに、労働条件の問題について大変な問題を含んでおりますので、当然職員との話し合い、特に職員組合との話し合いがどのようなふうになっているのか。職員組合ではこうした措置についてやむを得ない措置として承認をしているのか、この点について

お伺いをいたしたいと思えます。

さらに、この際こうした問題とともに、合わせ、職員の給与条件の改善という問題では、これまでこの議会でもたびたび論議されてきた問題に調整手当の支給問題がございます。こうした問題についてはどのように現時点ではお考えであるのか御見解をお聞かせ願いたいと思います。

さらに、今回のこのボーナスのカットは——一般職員のボーナスのカットということになるわけでありますが、私たち議員を含めまして市長さん、助役、収入役、こうした特別職のいわゆるボーナス、これについてはどのようなお考えなのか。市長さん御自身の政治姿勢をお伺いしたいと思うわけであります。

答弁によりまして再質問いたします。

○総務部長（石田雄一君） ただいまの神田議員の質問にお答えをするわけでありますが、まず第一の期末、勤勉手当に關しまして前年度の給与ベース、実質上のカットということが出たわけでございますが、一応カット分の総額は、額といたしましては二千四百四十七千円の減額になるわけであります。

職員一人当たりの額ということでございますが、四百九十二人の職員から逆算いたしました、平均約五万円弱ということになるわけでございます。

二番目の、県の人事委員会の勧告に従わなかったその関係におきまして、特に近隣市町村との問題が出たわけでございますけれども、今回の給与改定にあたりましてはあくまでも国、県に準じましてのいわゆるその給与原則に沿っての改正をしたわけでございまして、この十二月議会、あるいは新年に入りましてのそれぞ

れの各市の議会等もあるわけでございまして、現時点ではまだ詳細に把握しておりません。

それから、職員組合との話し合いはどうなっているかというところでございますけれども、たまたま一昨日でございましたが、給与担当部長である総務部長交渉をいたしましたわけでございます。その際の組合の要求事項といたしましては、県の人事委員会の勧告を尊重していただきたい、それから年内の支給見切り発車については不満である、県の人事委員会の勧告を完全実施するのであれば、年内の支給でなくても年度内でよろしいというような申し入れを受けておりまして、これについては一応見切り発車という形での給与の改定に踏み切ったということでございます。

次に、調整手当の支給でございしますが、これにつきましては市の議会においても幾度か取り上げられてきたわけでございますが、現時点といたしましては調整手当の支給について特に考えていなかったわけでございます。

○市長（半澤良一君） 特別職の期末、勤勉手当につきましては、従来も特別職のベースアップの場合には遡及するということは、さかのぼることはいたしておりませんので、現ベースで支給します。

○一番（神田守隆君） 県内の各市町村の動向については、現時点ではまだ把握しておらないという御答弁でしたけれども、私どものほうで調べたところでは、国、県に準ずるということでなくて、人事委員会勧告を完全に実施するという市町村もかなりあるというふうな認識を持っているわけでありまして。早急にそうした動向について把握をきちんとしていただきたいと思います。同時に

にそうした各県内の市町村の動向によつては、完全実施の問題についての考え方というのは今後検討の余地があるのかなのかお聞かせを願いたいと思うわけであります。

特に、この問題では職員組合との交渉の中でも、年内支給でなくとも、完全実施されるということになれば年度内の実施——支給時期は遅れてもとにかく完全実施してもらえばそのほうがいいんだというような職員組合の意見もあるということですから、なおさらそうした点についての考え方をはっきりさせていただきたいと思うわけであります。

調整手当については、全く考えておらないということでありまして、大変これまでの経過からいっても残念なことだと思えますし、こうした時期だからこそ、こうした問題についても十分なる配慮をしなければならぬというようなことを強調しておきたいと思ひます。

最後に、従来からも特別職の問題についてはさかのぼることはしないということで、今回もいわゆるカットといひますか、そうしたものは特別職についてはないわけであります。その点についてはそのことどうこうというわけではありませんが、私の質問の趣旨は国においても各閣僚の間でもそうした問題が論議されていると聞きます。またそうした法案も通過したというような話も何っておりますけれども、職員にこうしたカットというような負担を一方でしながら特別職については何もないというのはなかなか了解のできないところではなからうかと思ひわけであります。

そうした点で、従来の慣行云々の問題ではございません。市長の政治姿勢としてこうした問題についてのお考えはないのかどう

か。そういうことについてお聞かせを願いたいと思うわけで、質問の趣旨が、こうしたいわゆるカットというものについては、職員だけに負担をかぶせるということではいけないのではないかと、こういうことについてお聞かせいただきたいと思うわけがあります。

○市長（半澤良一君） 従来は、職員は、人勧あるいは人事委員会の勧告に従いまして十二月にベースアップがあつてさかのぼつてゐるわけですが、特別職はそれがないということで、いわばこれで同じになるんだということでございます、特に考えておりません。

私は、従来人事院勧告あるいは県の人事委員会勧告等を尊重してまいるといふ姿勢でまいりましたが、やはり給与決定の基本的な原則は、国、県及び他の自治体、それから民間等の給与を参考にして決めるのが原則でございます、県及び国、それから他の町村、自治体等も必ずしも完全実施をしていないわけでございますので、県の人事委員会の方向に従つて実施をいたしました、完全実施をする意向はございません。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。
本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よつて委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

○一番（神田守隆君） 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について、議案の第六十五号であります。従来人事院の勧告、これを尊重し、そしてまた県人事委員会の勧告に基づいて市の職員の給与の条件について引き上げを図つてきた従来の慣行からしましても、今回の措置というのはそれから後退するものだというところで、大変残念なことだということを指摘せざるを得ません。

また、職員組合の間でも話し合いもつておられ、こういうことかと思ひますし、その点からも承服のできかねるところであります。

さらに、こうしたいわゆるカットが、一般職員のみに課せられるということは、均衡上の問題から言つても大変に理解しがたいところであります、私としてはこの議案の第六十五号職員の給与と条例の一部を改正する条例、他の項目について、労働条件改善給与のアップ等含まれるわけでありますが、しかしながら、従来的人事院勧告の内容を完全実施しないということでは大変重要であるという認識を持ちますので、あえて反対いたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。よつて討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第九、議案第六十六号乃至議案第七十号昭和五十六年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 以上で朗読を終わります。

議案の内容説明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十六号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算第七号について提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出予算の補正としまして、歳入歳出それぞれ五千二百二十六万七千円を追加し、総額九十四億二千八百七十四万七千円としようとするものであります。

この内容といたしましては、先ほど御説明申し上げました給与改定に伴うもので、各款にわたり人件費の補正であります。

当初予算に改定費といたしまして二万を計上してありますので、今回この差額等について補正しようとするものであります。

この補正財源といたしましては、全額繰越金をもって充当しようとするものであります。

次に、議案第六十七号から議案第七十号までの昭和五十六年度各特別会計にかかわる補正予算におきましては、一般会計と同様に給与改定に伴う差額等について補正しようとするものであります。

なお、これらの補正財源といたしましては、繰越金等をもって充当しようとするものであります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

質疑応答

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○一九番（石井輝久君） 二点、御質問申し上げます。

第一点は、追加議案書の歳入歳出補正予算、歳入面、要するにこれは、議案第六十六号の第一ページ、第一条で五千二百二十六万七千円を追加補正する、以下歳入で同じく繰越金ということになります。歳出面は、ただいま市長の御説明のとおり。それから細長い説明資料の二三ページ、ここに各会計総括表としてございませう。そのうちの一番上の一般会計、ここに補正額として五千二百二十六万七千円と記載されております。これには説明欄がございませうし、ただいまの市長の提案理由の説明を伺っても、ただ繰越金というだけで、その内容について御説明がございませうから

第一点としてお伺いいたします。

まだ、可決はされておりませんけれども、今定例会の当初提案された補正予算案がございします。これは委員会の付託を終えておるわけでございしますけれども、これを見ますと、ここで、歳入面で繰越金、前年度繰越金として一億七千三百二十六万六千円、この十二月定例会で歳入面の繰越金として昭和五十六年度予算に追加補正されておりします。提案されている。そして、一億七千三百二十六万六千円追加補正することによって、総額九十三億七千七百四十八万円の年間予算になる。最終日の本日になりましたいろいろな事情から再び追加補正しようとしておりますが、これはどうやら委員会の付託にならないようですから、あえて御質問するんですが、ここで補正につぐ補正、追加提案五千二百六十七万七千円、これは提案されておりします。

繰越金というのは、打出の小槌のように必要な歳出の要求を満たすためにポンポンと一億あるいは五千万と繰越金がふりつと入ってくるのかどうか。

少なくとも、この前年度繰越金というのは、私どもの理解をもつてするならば、昭和五十六年五月三十日をもって出納閉鎖する出納閉鎖したものを計数整理して、九月の議会で、それを締めて決算書を作成して議会に提案します。それを私も慎重審査して可決いたしました。そのときに昭和五十五年度予算の繰越額が、五月三十日に閉鎖した、計数を整理する、残ったものがこれですよというところで九月の議会で提案される。だけれども、そのときは九月の定例会に追加補正した、それで十二月にまた繰越金の追加補正で歳入として計上されている、それはそこまではいいけ

れども、今回追加補正をしようとしているものがさらに五千二百六十七万七千円追加補正している、来年度またこれが前年度繰越金で出てこないとも限らないというように感じを持つわけです。どうも理解に苦しむんですが、明快なる御答弁を賜りたいと存じます。

それから、もう一点は、追加議案のページで示しますと二一ページでございします。それから二二、二三ページにまたがるかとも存じますが、それと同時に、当初今次定例会に提案されております一般会計補正予算案の議案書三〇ページでございします。

当初の、提案されました三〇ページの一般職の給与総括、ここで備考欄で中段でございしますが、一般職員一人当たり給与費の状況、区分として補正前三百七十一万五千円——この前のやつですよ、議案書による一般職の総括、一般職員一人当たりの状況、ここで給与費のアップが行われておりますが、アップ額千円、補正前三百七十一万五千円、補正後三百七十一万六千円、つまり千円のアップが行われております。

本日、追加提案されましたものが、二一ページの補正予算給与費明細書の一般職総括として下段の備考欄を拝見いたしますと、一般職職員一人当たり給与費の状況といたしまして、補正前——前の予算書で補正後として三百七十一万六千円として記載しておりますが、これが今度、本日提案されました追加議案のほうでいたしますと、これは今度補正前になるわけでございしますが、三百七十一万六千円、これは補正後の当初のものと比較すると合致する、補正後として三百八十八万八千円、一人当たりほぼ十万円のアップが行われることになろうとしておるわけであります。

その根拠をいたしまして、二三ページの給料及び職員手当の増減額の明細、区分とさせていただきますが、その備考欄を拝見いたしますと五・一四の給料改定率として記載されております。これで理解はできます。そして、いまは十二月だけでも、五・一四の給料改定率を今年の四月にさかのぼって実施しようとする、そして、職員給与一人当たりかなりの額——かなりの額と言っているのかどうかわかりませんが、要するに十萬弱前度、一人当たりアップされる、年末を控えて結構な議案だと思いますが、四月にさかのぼって実施しようとする、その理由を簡明に御説明いただきたい。

それから、給与の改定率につきましては、先ほど質疑が行われましたから、私も質問しようと思いましたがけれども、率の問題につきましては質問いたしません。

ただ、議案書で、実施しようとしている、備考欄で説明されておりまして、議決して、ところが職員はこれじゃ要らないといっている、来年度でも結構だといっている、実施につきましてこの点をどのような措置を講ぜられるのか。実施の時期はいつを目途としておられるのか。きょうは十九日、あしたは給与支給日ですから、あした支給しようとするのか。あるいは御用じまいの二十八日に支給しようとするのか。あるいは組合の要求をのんで実施時期を来年に持ち越そうとするのか。

なお、次に、アップ率の五・一四、今後さらに検討して変更を加える御意思がありやいなや。

以上、ごく簡単に結構ですが、御質問いたします。

○総務部長（石田雄一君） 石井輝久議員の御質問にお答えをいた

します。

まず、第一点の、説明資料の一三ページでございます。一般会計の補正額五千二百六十七万七千円という額を計上いたしておりますけれども、昭和五十六年度の職員の給与につきまして、今回の給与条例の改正をいただきました時点で七千九百九十九万四千円の給与額が出るわけでございます。そのうち当初予算におきまして二万でございます四千二百一十一万一千円の留保額を計上いたしておりますので、その不足額三千七百九十八万三千円。それから時間外勤務に伴っての増、これらを加えまして五千二百六十七万七千円という数字が出たわけでございます。

次の繰越金の関係でございますけれども、五十五年度の決算、先般御審議いただきましたわけでありますが、館山市の五十五年度決算の中に歳入といたしまして繰越金が三億六千八百八十一万の数字を計上したわけでございます。これが五十五年度の実績でございます。これはいわゆる前年度からの繰越金という形で昭和五十六年度の当初予算に入ってくるわけでございますが、その歳入を入れて五十六年度予算を編成いたしましたので、現時点で繰越金の見通しといったものはこの予算にございまして、議案の五ページでございますが、歳入……。

それでは、いわゆる追加の補正の中の数字を申し上げますと五ページの歳入の中でございますが、繰越金、補正前の額で二億八千三百三十五万二千元、今回の補正で五千二百六十七万七千円、計三億三千四百六十一万九千九百九十九円という数字が出ておりますが、これが新年度の繰越金の現在の額になっているわけでございますが、また五月末までの間の歳入歳出の予算執行等の兼ね合いにおきま

してどの程度出るかまだ未定でございますけれども、これプラスの……。ですから、今後の予算の執行によって五十六年度の決算が出てまいりまして繰越金という数字が確定するわけでございます。

ただいまの答弁の補足をさせていただきます。五ページの三億三千四百六十一万九千円というものは、繰越金のただいまの額として計上されておりまして、先ほど言いました五十五年度決算の三億六千八百八十一万、これが前年度からの繰越金という数字が出ておりますが、その差額がまだ財源としてあるわけでございます。

それから、三番目の質問でございますが、二一ページ一般職職員一人当たり給与費の状況でございますが、補正前三百七十一万六千円、補正後の三百八十八万八千円、この十万円の増についてでございますけれども、この数字につきましては、その上欄の給与費十八億七千三百五十万一千円と職員数四百九十二人、これを割りかえますとここに数字が出るわけでございますが、十一月の時点での計算では、これを見る限り一万円ということでございますが、給与改定、今回の給与条例によっての給与改定で、これは一般行政職でございますけれども、一人平均約一万二百十四円の給与の増になっております。

そこで、四月にさかのぼっての支給の理由でございますけれども、国、県の動向を見きわめまして、改定率そのものは全くカットをせずにそれを受けまして給与改定をいたしましたして、結果的に五・〇％の給与改定をいたしましたわけでございますが、改定率の完全支給ということで四月から十二月の改定までの間の支給をいたすというものでございます。

それから、今回の給与改定に伴って、議決をいただきました以後の支給の問題でございまして、十八日、県議会のほうが終わりました、条例を受けて規則で支給期日を定めるということになっていくわけでございますが、一応国が二十一日の国会冒頭に給与関係法案を上程いたしましたして、それを受けて二十五日の年内支給ということをいっておりますので、県も一応二十五日支給を考えております。本市の場合、一応規則で支給日を定めるわけでございますが、国の支給をみまして判断をさせていただきます。一応は予定は二十五日でございます。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

まず、第一点目の繰越金でございますが、要するにいま追加提案されたものを、前年度繰越金——つまり昭和五十五年度から五十六年度に繰り越された額の、繰越金が追加提案されて歳入としてあがってきております、五千二百六十七万七千円。つまりこれは前年度ですから、いま当年度は昭和五十六年度、昭和五十五年度におきまして五十六年度に繰り越した額が五千二百六十七万七千円でございますよ、という財源でございます。それから、先ほど申し上げましたもう一冊の追加補正、これもまた昭和五十五年度から五十六年度に繰り越されるものが一億七千三百二十六万六千円ございましたよという、これが歳入として、繰越金として計上されるんですよという、こういう議案ですよ。

ここで、先ほど指摘いたしました、そもそも昭和五十五年度の予算というのは、館山市に限らず、その年の五月末日をもって出納を一切びしゃっと閉鎖します。それから以後一体幾らに

なるのかな、つじつま合わせ、計数整理と先ほど表現いたしました、いわゆる計数整理をずっとしてきたものが、合算したものが九月決算の繰り越し、前年度から五十六年度に繰り越されたものは出納を閉鎖しましたところ三億六千八百八十一万でございます、こうして議会に決算書として提出されます。私も慎重審査した結果、これは結構でございました。市民生活の向上のために予算を執行してくれました。執行した結果、三億六千八百八十一万円の残金が出ました。これは昭和五十六年度に繰り越されました。それも結構でございましょう。こういうことで決算審査の幕を閉じるわけであります。

そうして、決算審査で幕を閉じたと思ったら、十二月補正で一億七千三百二十六千円の前年度からの繰越金がありましたと、財源として提案されております。ああそうかと思っております。そうしたら本日追加補正されたもの——歳出はわかります。もっぱら給与改定、これは歳出面、別に御質問いたしませんけれども、給与改定は、二十五日とにかく館山市では職員一人一人に支給するという答弁なんで、それはよろしゅうございますが、ところが、昭和五十五年度の決算が、五月三十日出納閉鎖したものが、九月決算で三億六千八百八十一万円であった。これは整理しただけですよ。その結果、さらに十二月に至って一億七千三百二十六千円も前年度から繰り越されていた。どこに隠して持っていたんですか。打出の小槌とさっき言ったのはこのことなんです。さらに、きょうに至って——歳出面はいいですよ。財源として、前年度繰越金がさらに五千百万円も残っていた。どこの金庫に隠してあったんですか。これ隠し財源ですよ。一体どうするんですか。

明快なる御答弁をいただきたい。

○総務部長（石田雄一君） ただいま御質問の件でございますが、今回の説明資料の一四ページをお開けいただきたいと思っております。

この補正額の欄の一般財源の欄でございますが、この一五の繰越金五千二百二十六万七千円を追加補正で計上いたしました。現計額の二億八千三百三十五万二千円に合わせまして三億三千四百六十一万九千円と相なるわけでございますが、先ほど言いましたように、前年度のいわゆる五十五年度決算の出納整理期間を経まして、最終的に繰越金が三億六千八百八十一万決算上出てきたわけでございます。これを五十六年度の一般財源として一応歳入の受け入れをいたしましたわけでございますが、今回の給与の補正財源といたしまして、いろいろ考え方がございますが、この繰越金の一般財源を充当しようというものでございます。

なお、打出の小槌という言葉でございますが、いろいろその年度の決算の状況もございまして、実質収支のあるなしによってこういった問題が出てくるわけでございます。

○一九番（石井輝久君） これで三回目ですから終わりますけれども、そうすると、打出の小槌じゃなくて、前年度からの繰越金を小出しに追加財源として計上している、やりくり御苦労でございますけれども、そうすると繰越金はあふところに入れてあるのはどのくらいの残があるんですか。参考のために聞きかせたい。

先ほどの質問で、給与改定の五・一四の支給日は二十五日ということでは承知いたしましたけれども、五・一四は今後とも変える意思はないのかという質問に対してお答えをいただきたい。

と思います。

○総務部長（石田雄一君） お答え申し上げます。

先ほど申し上げました数字の差額になるわけでございますが、三千四百二十万、これが前年度からの繰越金の現在まで使いまし、てなお残る額でございます。

それから、今議会の議決をいただきますと、二十五日の年内支給ということで……。なお、五十六年度の給与に關しましては、三月までの間の給与改定があるかということでございますが、これにつきましては今回の給与条例の中で一応（「変えないということですか」と呼ぶ者あり）変更なしということでございます。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

議案第六十六号乃至議案第七十号の各議案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

○一番（神田守隆君） 議案の第六十六号乃至議案第七十号についてでありますが、先ほど議案第六十五号で、館山市職員給与条例

の一部を改正する条例の制定についても討論したところでございますが、この各議案は職員の給与の改定を図ろうとするものであるわけであります。その内容において、職員の給与の条件が是正されるわけでございますが、その点につきましては大変結構なことでだと思っておりますが、これまでもこの基準とされてきた人事院の勧告、これが今回完全実施されないというより大変重要な問題点を含んでいるわけで、この予算については重大な問題点を持つものとして賛成できませんので反対いたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終わります。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により一括して行います。

議案第六十六号乃至議案第七十号の各議案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第六十六号乃至議案第七十号の各会計補正予算はいずれも原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第十、発議案第六号国民健康保険給付費の都道府県一部負担導入反対に關する意見書の提出についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 以上で朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長(林 豊君) 提出者の説明を求めます。

(一二番議員栗原一雄君登壇)

○一二番(栗原一雄君) 発議案第六号国民健康保険給付費の都道府県一部負担導入反対に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

御承知のとおり厚生省は五十七年度予算要求において国民健康保険給付費の国庫負担分の一部を都道府県に肩がわりさせることとしておりますが、これは単に都道府県の負担がふえるだけの問題ではありません。

仮に、この措置が強行された場合には、都道府県の負担に対する財政措置が必要となり、限られた地方財政対策費の増加分の中からまずこの分を先取りすることになりますので、市町村の財政にも多大な影響を及ぼすことは必至であります。

このような状況から、関係諸団体における反対運動が展開されておりますが、本市議会といたしましてもこの際全国的な運動に呼応いたすべく、お手元に配付のとおり六名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長(林 豊君) 以上で説明は終わりました。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長(林 豊君) これより討論を行います。

○一番(神田守隆君) 国民健康保険給付費の都道府県一部負担導入に反対する意見書について賛成の立場から討論いたしたいと思います。

現在、国民の身近な生活の場で一番大きな役割を果たしているのは、これは市町村であることは論をまたないことと思います。そうした中で、臨時行政調査会の答申は、市町村に対し大変に財源上厳しい内容を要求していると言わざるを得ません。特に市町村の財源に対していろいろな形でその削減の策が検討されているやに聞きます。いわく地方交付税の削減があり、そうした中で国民健康保険給付費の都道府県への一部負担の導入の問題も出てきたと理解をするわけでございます。

そうしたわけでありますから、市町村の財源を守り、鎮山市民

の生活を守る、そうした立場からも、こうした臨調の地方に対する圧迫路線、その路線そのものに対して私は反対すべきであるというふうに思うわけがあります。

こうした点から、国民健康保険給付費の問題に限らず、大いにこうした議論を市町村は行い、国に対し意見書を上げるべきである、こういう点を特に強調したいと思うわけがあります。

こうした、臨時行政調査会の答申の路線の具体化として今度の問題をとらえるわけでございます。そうした意味で、この意見書について補強意見としてあえて申し述べ、賛成意見といたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終わります。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第十一、発議案第七号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦についてを議題といたします。

本案は、地方自治法第一百七条の規定により、石井輝久君の一人身上に関する案件でありますので、退席を求めます。

（一九番議員石井輝久君退場）

○議長（林 豊君） 議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

一二番議員栗原一雄君。御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第七号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

議会の推薦によります農業委員会委員のうち、押元 裕君が死亡したことに伴いまして、その後任として石井輝久君を最適任者として推薦いたしたく、お手元に配付のとおり六名の賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

採 決

○議長(林 豊君) よってこれより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

(一九番議員石井輝久君入場)

三芳水道企業団議会議員補欠選挙

○議長(林 豊君) 日程第十二、これより三芳水道企業団議会議員補欠選挙を行います。

この補欠選挙は、押元 稔君が去る十一月二十一日死去されましたので、組合規約第七条第二項の規定により行いものである。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第百十八条第二項の規定により指名推薦によりたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推薦によることに決しました。

お諮りいたします。指名の方法は議長において指名することにしたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

三芳水道企業団議会議員に流山源次郎君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました流山源次郎君を三芳水道企業団議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって指名のとおり流山源次郎君が当選されました。

ただいま当選されました流山源次郎君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定により告知をいたします。

閉

会 午後零時五十五分閉会

○議長(林 豊君) 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。

よって、これにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、議案第五十五号乃至議案第七十号
- 二、請願第三号乃至請願第六号
- 三、発議案第六号及び発議案第七号
- 四、三芳水道企業団議会議員補欠選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 林

館山市議会議員 栗

原

一

雄

館山市議会議員 和

田

一

郎

